

チーム医療の一員としての 臨床検査技師について

健康 コラム



秋田厚生医療センター 臨床検査科

臨床検査技師長 須田 公治

患者さんは具合が悪い時や定期的な検査のために来院されますが、医師は正しい診断を下して適切な治療を行うために、患者さんの体にどのような異変があるのかを知る必要があります。現在の医療は非常に複雑化しているため、医師を中心とする多職種医療スタッフが専門知識と技能を持ち寄ってチームとして治療にあたる「チーム医療」が基本となっています。このチームの一員として、臨床検査技師:MT (Medical Technologist) という職種があり密接に連携することによって、患者さんに合わせた診療をすることにつながります。

【臨床検査技師の具体的な仕事内容】

臨床検査技師ができる検査には、患者さんから採取した検体を検査する検体検査(社会的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症のPCR検査もその一つです)や、患者さん自身を検査する生理機能検査があります。その他、患者さんへの検査の説明や検査機械が正常に動くためのメンテナンスも臨床検査技師の仕事です。

【検体検査とは】

検体検査では、血液、尿、便、体腔液、細胞、組織など、患者さんから採取した検体を使って検査を行います。血液検査や生化学・免疫検査、病理検査など、さまざまな部門に分かれています。以下は、検体検査の代表的な検査内容を簡単に表記します。

一般検査	患者から採取した尿、便、体腔液(胸水や腹水など)などを調べることで、腎臓、肝臓、消化器などの異常を検査します。
血液学的検査	血球成分(白血球、赤血球、血小板など)を調べることで、貧血、炎症といった体内の異常や病態を検査します。
生化学検査	血中の糖質、脂質、たんぱく質、電解質(ミネラル)、ビタミン、酵素などを調べることで、臓器の異常を検査します。代表例: γ -GTP、コレステロールなど
免疫血清検査	ウイルスなどの感染症免疫学的検査、ホルモン、腫瘍マーカー、血液中のお薬の濃度、自己抗体検査などの検査を検査します。代表例: コロナ抗原、PSA、リウマチ因子など
遺伝子検査	細胞に含まれる遺伝子を調べて、体質や病気のリスクなどを検査します。

輸血検査	安全な輸血を行うため輸血用血液製剤が患者さんに適合するかどうかを見る検査です。血液型や不規則性抗体の有無を検査します。
細菌検査	様々な検査材料(血液、喀痰、尿、便、膿、胸水、腹水など)から、感染症の原因となっている菌の種類を検査します。
病理・細胞診検査	病巣から採取した組織や細胞などから、良性・悪性などを判断します。

【生理機能検査とは】

心電図検査や脳波検査、超音波検査など、患者さんの身体を直接調べる検査のことで、「生体検査」とも呼ばれます。心臓、脳、神経といった体表面からの診断が難しい器官の場合、生理機能検査を行うことで患者さんのリスクを最小限に抑えながら、異常や病態を調べることができます。

代表的な検査内容を簡単に表記します。

心臓系検査	心電図、脈波などを検査して、心疾患の診断、ペースメーカーの機能評価などを行います。
脳波検査	頭皮に電極を装着し、脳の電気信号を記録することで、腫瘍や外傷、てんかんなどを調べます。
神経機能検査	身体に取り付けた電極から電気刺激を与え、運動神経の伝導速度を測定し神経障害の有無を調べます。
呼吸機能検査	肺活量、肺機能などを検査して、肺や気管、気管支における障害の有無を調べます。
超音波検査	超音波を利用して血管や臓器の動きを画面に表示しリアルタイムで状態を調べます。

生理機能検査では、患者さんの身体に直接触れるため、相手に不安を与えないようにしっかりとコミュニケーションをとりながら検査を行う事を心掛けています。

【さいごに】

私たちの仕事は「命」に関わります。チーム医療が主流の医療現場では、他のスタッフとの連携はもちろん、患者さんと接する機会も増えてきており、コミュニケーションは大切です。時にはお叱りを受ける事もありますが、治療への第一歩となる検査を行うことで医師と患者さんをつなぐ重要な役割を果たすことができるようにスタッフ一同心掛けておりますのでよろしくお願いいたします。